

第16回 炭焼き体験と水辺の交流会



元気な参加者47名とスタッフで記念写真をパチリ（奥多摩フィッシングセンターにて）

2024年8月21日(水)、青梅市御岳にある奥多摩フィッシングセンターにて、「第16回炭焼き体験と水辺の交流会」が開催されました。今年も大人気のイベントで、受付開始後1週間で定員になりました。イベント当日の朝は曇り空でしたが、受付を開始する頃には青空が広がり、47名の元気な親子が会場に集まりました。

開会式では、当フォーラムの平岡副会長（青梅信用金庫理事長）、青梅市環境部環境政策課課長の高野様から主催者挨拶をいただき、おうめ水辺の楽校運営協議会会長の須崎様と澤田アドバイザーをご紹介。また今回初めてスタッフとして参加した、当フォーラム会員で青梅信用金庫の新入職員5名も紹介され、いよいよ交流会がスタートしました。

まず、奥多摩フィッシングセンターのバーベキューハウスを借りて、DAIGOエコロジー村村長の川口武文先生をはじめ5人の講師による「花炭焼き体験」がおこなわれ、参加者は4班に分かれて松かさや花、葉っぱ等の有機物を炭化させる方法を学びました。

次に参加者はライフジャケットとヘルメットを着用し、ふれあい移動水族館館長で当フォーラム運営委員の山崎愛柚香先生と一緒に川岸へ移動。数日前の台風の影響で若干の増水と濁りがある事から、今年はロープで川の一部を囲って安全地帯を作り、限られた水辺で川の流れに身を任せる浮力体験をおこないました。

次に手作りのいけすへ移動し、ヤマメやニジマスのつかみどりを体験しました。愛柚香先生の「エイエイオー！」の掛け声と共に元気につかみどりに挑戦する子どもたちですが、魚がすばしっこくてなかなかつかめません。上手くつかむことができた子が、まだつかめていない子のサポートに回るなど、ほほえましい光景もありました。

つかみどりが終わると、愛柚香先生がバケツの底をテーブル代わりにして魚をハサミでさばき始め、普段見ることのできない心臓の動く様子や内蔵の仕組み、オスとメスの構造の違い等を教えてもらい、命の尊さを学びました。

バーベキューハウスに戻ってライフジャケットとヘルメットを脱いだ途端、10分ほどの通り雨がありましたが、幸い濡れずに済みました。つかみどりしたヤマメとニジマスはバーベキューハウスの一角で炭火焼きされ、香ばしく焼けた塩焼きを参加者全員で命に感謝しながらいただきました。また、種類の違う魚の味くらべも楽しみました。

お腹を満たした後は、愛柚香先生の紙芝居で「水辺の安全教室」をおこない、川で遊ぶ時の注意事項等を学びました。その後、炭化させた有機物のでき具合を観察し、お土産に持ち帰りました。

最後に愛柚香先生の閉会挨拶でイベントは無事終了しました。参加した方からは「毎年楽しいイベントで参加できて嬉しい」、「はじめて花炭を知った」、「川の危険についてすべて良かった」といった声が事務局に寄せられました。

当フォーラムでは、「炭焼き体験と水辺の交流会」を教育文化軸の中核事業と位置付け、今後も継続して実施し、子どもたちへの環境教育を実践してまいります。

イベント当日の様相



会場の奥多摩フィッシングセンターは、曇り空から徐々に晴れ間が見えてきました。



イベント中の主な居場所となるバーベキューハウス。屋根があるので雨や日照りをしのげます。



8時半過ぎ。元気な親子47名が続々と受付を済ませます。



9時になり、開会式がはじまりました。



開会挨拶をする平岡副会長（写真左・中央）と青梅市環境部環境政策課高野課長（写真右・中央）。





花炭の講師5名も紹介され、
花炭焼き体験がスタート。



まず、「花炭」について説明を受けます。



松かさやアジサイの花、葉っぱ等の有機物をひとつひとつ丁寧にアルミホイルで包み、
空き缶に入れてワイヤーで縛ります。



川岸に設置してある炭焼き会場に参加者全員で缶を運び、講師の指導を受けながら火起こし
をおこない、網の上に乗せた缶で簡単に炭化させる方法を学びました。



花炭ができるのを待つ間、参加者は自分の体格に合ったライフジャケットとヘルメットを身に着け川岸へ移動。





若干の増水と濁りがあるため、ロープで川の一部を囲い、安全地帯を作った上で親子で水の掛け合いや川の流れに身を任せる浮力体験をしてもらいました。



上手にプカプカ浮く子もいれば、怖がって流れに身を任すことができない子もいました。



手作りのいけすに移動。愛柚香先生の「エイエイオー！」の掛け声で魚のつかみどりがスタート。



一生懸命魚をつかもうとしますが、すばしっこくてなかなかつかめません。



ようやく1匹をゲット！その後もみんなで沢山の魚をつかまえることができました。



全ての魚をつかみどりした後、愛柚香先生がバケツの底をテーブル代わりにして魚をハサミで解体し、内臓の仕組みや動く心臓を子どもたちに見せ、命の尊さを学びました。





つかみどりしたヤマメとニジマスを炭火でじっくり焼く青梅市職員のお二人。



種類の違う魚の塩焼き。味の違いは分かるかな？



お腹を満たした後は、愛柚香先生の紙芝居による「水辺の安全教室」がはじまりました。



先生の質問に元気に手を挙げて答える子どもたち。



最後に炭化された有機物を確認するためアルミホイルをそっと広げます。



花炭のでき具合はどうでしょうか？匂いを嗅いで炭化の様子を確認します。



炭化前と炭化後の松かさの横に並べて違いをじっくりと観察する子もいました。



多摩川に感謝を込めて「バンザイ！」で閉会。参加された皆さん、お疲れさまでした！